

※徳島県ホームページ（企画総務部PR）に掲載しています。
(<http://www.pref.tokushima.jp/>)

「世界遺産暫定一覧表記載資産候補」再提案書の概要について (※H19.12.20提出分)

1 提案のコンセプト

(1) 概要

- ◇四国遍路は、全長 1400km に及ぶ壮大な寺院巡礼
- ◇遍路の基となる「思想・信仰」と実践する「場」とそれを支える「地域」の三者一体となったものが四国遍路文化であり、遍路の主体が僧侶等から一般民衆へと広がり、千年を超えて継承
- ◇時代とともに変化する地域社会と共存して継承
- ◇現在、年間 15 万人もの人々が宗教や宗派を超え、それぞれの思いを込めて巡拝する生きた文化資産

(2) 保護措置

- 【札所寺院】 → 88箇所の札所寺院の史跡一括指定
- 【遍路道】 → 史跡・重要伝統的建造物群もしくは重要文化的景観のコアゾーンと景観条例等によるバッファゾーンにより 1400km 全てを保護

2 資産に含まれる文化財

(1) 四国八十八箇所霊場

- ◇江戸時代後期の全札所の状況を明確に示す「四国遍礼名所図絵」（1800 年）と現在の札所寺院を比較し、建造物や地割り等における歴史的継承性確認の調査を実施し、史跡指定想定範囲を示した。

----- 【各県の代表的な札所を抽出】 -----

・徳島県：	8 番熊谷寺（山）
・高知県：	38 番金剛福寺（海）
・愛媛県：	54 番延命寺（平・山）
・香川県：	80 番国分寺（平）

(2) 遍路道とその周辺の資産

- ◇江戸期に特定できる年紀を持つ道標等を根拠としてルートを特定し、史跡・文化的景観等の指定想定範囲を示した。

----- 【保護手法別延長距離】 -----

・史跡	：徳島県 65.7km(23.1%)	四国計 180.3km(12.8%)
・重要文化的景観	：129.5km(45.6%)	630.9km(44.8%)
・重要伝統的建造物群	：0km(0%)	10.5km(0.7%)
・景観条例等で規制	：89.1km(31.3%)	587.6km(41.7%)
合計	284.3km(100%)	1,409.3km(100%)

----- 【各県の代表的な遍路道を抽出】 -----

・徳島県：	史跡の代表例（11 番藤井寺あたりの遍路道）
・高知県：	文化的景観・遍路屋などの付帯施設の代表例 （四万十市津蔵淵から土佐清水下ノ加江）
・愛媛県：	史跡・文化的景観の代表例（40 番観自在寺～41 番龍光寺）
・香川県：	重要伝統的建造物群の代表例（76 番金倉寺～77 番道隆寺）

3 保存管理計画

(1) 個別構成要素に係る保存管理計画の概要等

【四国八十八箇所霊場】

◇ 88箇所全札所寺院の一括史跡指定

【遍路道と関連資産】

◇ 古道の様相が残る地域 → 史跡指定

◇ 舗装されていても改変が少ない遍路道 → 重要文化的景観の選定

◇ 古い伝統的町並みが残る地区 → 重要伝統的建造物群保存地区の選定

(2) 資産全体の包括的な保存管理計画の概要等

◇ コアゾーン及びバッファゾーンにより全長 1400km の四国遍路を結ぶ予定

(3) 資産と一体となす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要等

◇ 自然公園法・森林法等の既存の法令を活用すると共に条例等の制定により、適切な緩衝地帯を設定

その他、国土交通省四国地方整備局などの国の機関・経済団体・NPO法人等を含め四国遍路の保全・活性化に向けた取組が行われている。

4 世界遺産の登録基準への該当性

(1) 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準

◇ 空海縁の四国各地の霊場を巡る行為が数百年確実に継承されている。

弘法大師信仰に基づき一般民衆によって形成され、現在でも多くの人々が巡る希有な生きた文化遺産である。

◇ 四国の良好な自然的特性を活かした顕著な土地利用形態の見本である。

◇ 弘法大師信仰に基づく四国遍路文化は、地域の支援もあわせ、現在の形態に定着してからも数百年にわたり確実に継承されており、各地に歴史的継承性を示す文化的資産が残る。

(2) 真実性・完全性の証明

【真実性の証明について】

◇ 88箇所霊場は、江戸期の「四国遍礼名所図絵」等の絵図や遍路の日記等に表されており、遍路道は江戸期に設置された道標等で特定

【完全性の証明】

◇ 全線をコアゾーンとバッファゾーンで結ぶことで完全性の証明を行う

(3) 類似資産との比較

	紀伊山地の霊場と参詣道	サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路
類似資産の特徴	熊野三山・吉野・高野山という異なる霊場に至る参詣道が重複	贖罪を求めるキリスト教徒による聖地巡礼であり、聖地往復の参詣
四国遍路	弘法大師信仰による四国一円に展開する均質的な88箇所の霊場を巡る完結したループ状の道 数百年におよび一般民衆が遍路を行い、それを地域社会が支えた遍路文化が歴史的継承性を保ち、確実に継承されている	純粹に一般民衆の個人的な信仰によって形成され継承されてきた

◇ 四国遍路は、弘法大師信仰をもとに成立し、特定の宗派等にこだわらず「巡る人々」を受け入れてきた。現在も確実に継続している四国遍路は代表的な巡礼として人類共通の文化資産である。